

巻頭言

2008. 9月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

可愛い子には旅をさせる...

茗溪塾塾長 宇野雅春

長い夏が終わり、秋の気配が急に深まりつつあります。8月後半は雨の連続で、史上2回目の「ソフトボール大会中止」という事態を招きました。楽しみにしていた生徒には誠に申し訳ない次第ですが、9月以降はどんなに工夫をしても受験へ向けてのスケジュールが目白押しのため、「ソフトボール大会」の実施は不可能です。残念ではありますが、ここはきっぱりとあきらめて、受験へのラストスパートを切ってほしいと思います。この切り替えがうまくいかないと、受験自体が単なる「夢」や「希望」の次元で終わってしまいます。夏たくさん勉強したことを、きちんと整理していくことがここからの課題です。全力で取り組んでほしいと思います。

夏期合宿の最後に、なぜか「今の子供たちは大変」という思いにとらわれました。これは単に子供たちだけを見て思ったわけではありません。日本の経済水準が世界的にも上位になってから生まれた嘗ての子供が親になり、先生になり、そしてまた子供と向き合っているという状況を見ていて思ったことです。つい閉会式で「君たちはとても難しい時代を生きています。」と言っていました。核家族と少子化のせいか、淡白な家庭で大切にされて育ちます。「保護されている」といっても良いかも知れません。社会的かかわりを持つ段階になって、急にその事が変わります。子供たちの中には「不登校」という問題が持ち上がります。心因的要因が積み重なることと、生活リズムが崩れることがその原因といわれていましたが、30数年以上も前と比べるとその数は増え、18万人といわれています。今ではその原因や様子から「登校拒否」と「不登校」は区別されるようになってきています。学齢期を過ぎ大人になっても「引きこもり」「ニート」「うつ病」「パニック症候群」等々、すでに特殊なことではなくなってきました。そんな中で、塾に通える子供というのは多分かなり心の安定した強い子供たちであるはずなので、私たち塾の教師は最も恵まれた状況で、教科指導を行っていることに思い当たります。まして合宿まで参加してくる生徒たちはその中でもさらに意欲的な存在です。いつか必ず社会のいろいろな場面で、先頭に立ってリーダーシップをとっていくに違いありません。そう思いつつも「大変感」を強くしたのは、大人になっていくプロセスで「勉強だけ」していれば良いという感性だと、社会適応が難しいかも知れないということです。たくさん資格を取り、学歴を重ねても、自分の中に「幸福」がこないという難しさです。コミュニケーション能力の重要性が叫ばれ、その反語として「KY」（空気が読めない）なる流行語も登場しました。

合宿閉会式では「友達、できましたか？」の私の問いに一齐にたくさんの手が上がりました。実は子供たちもコミュニケーションを求めていることがわかります。家族という最も安心できる場所、きちんと保護されているという安心感は、子供を強くするといえます。それも言うは易く行うは難し！「家族」がある意味土台になりにくい時代の中で、社会へ出てコミュニケーションを築き、何かを成し遂げていく充実した生活を、どのくらいの人が得られるのだろうか？自分たちも十分にそこで苦勞はしたはずなのに、今の人達の方が多分難しいと思えるのです。志賀高原の合宿に今年は641名が参加しました。どの学年にも懐かしい顔がたくさんいました。小学生のとき教えた生徒が高校生になって又参加していて、気がつかないですれ違っただけの生徒もたくさんいました。合宿の中では、家庭と違い自分で判断し、友達と助け合い、という自主性が要求されてきます。そこで養われる「社会性」が大切だと思います。「可愛い子には旅をさせる」とは昔の人が言った「ことわざ」ではありますが、社会に出るようになって急に厳しくなる今の時代、そんな「自立体験」の必要性を言っているように思っています。